

関私教協北部地域第1回研修会

# 令和4年度「教職課程自己点検・評価」 実施の振り返りと今後の課題

事例報告④ 十文字学園女子大学

教職課程センター長 羽田邦弘

令和5年11月26日(日)



大学マスコット「プラスちゃん」



## 人間生活学部

健康栄養学科 → 保健体育(中一種、高一種)、栄養教諭(二種)

食物栄養学科 → 栄養教諭(一種)

食品開発学科

人間福祉学科

## 教育人文学部

幼児教育学科 → 幼稚園教諭(一種)

児童教育学科 → 小学校、特支(知肢病)、幼稚園、英語(中高) ※各一種

心理学科 → 養護(一種)、保健(中一種、高一種)

文芸文化学科 → 国語(中一種、高一種)

## 社会情報デザイン学部

社会情報デザイン学科

## 大学院：人間生活研究科

食物栄養学専攻 → 栄養専修

免許種15に対応

● 建学の精神、学園歌

[十文字学園の心を映す学園歌]

身をきたへ 心きたへて  
世の中に たちてかひある  
人と生きなむ



創立者 十文字

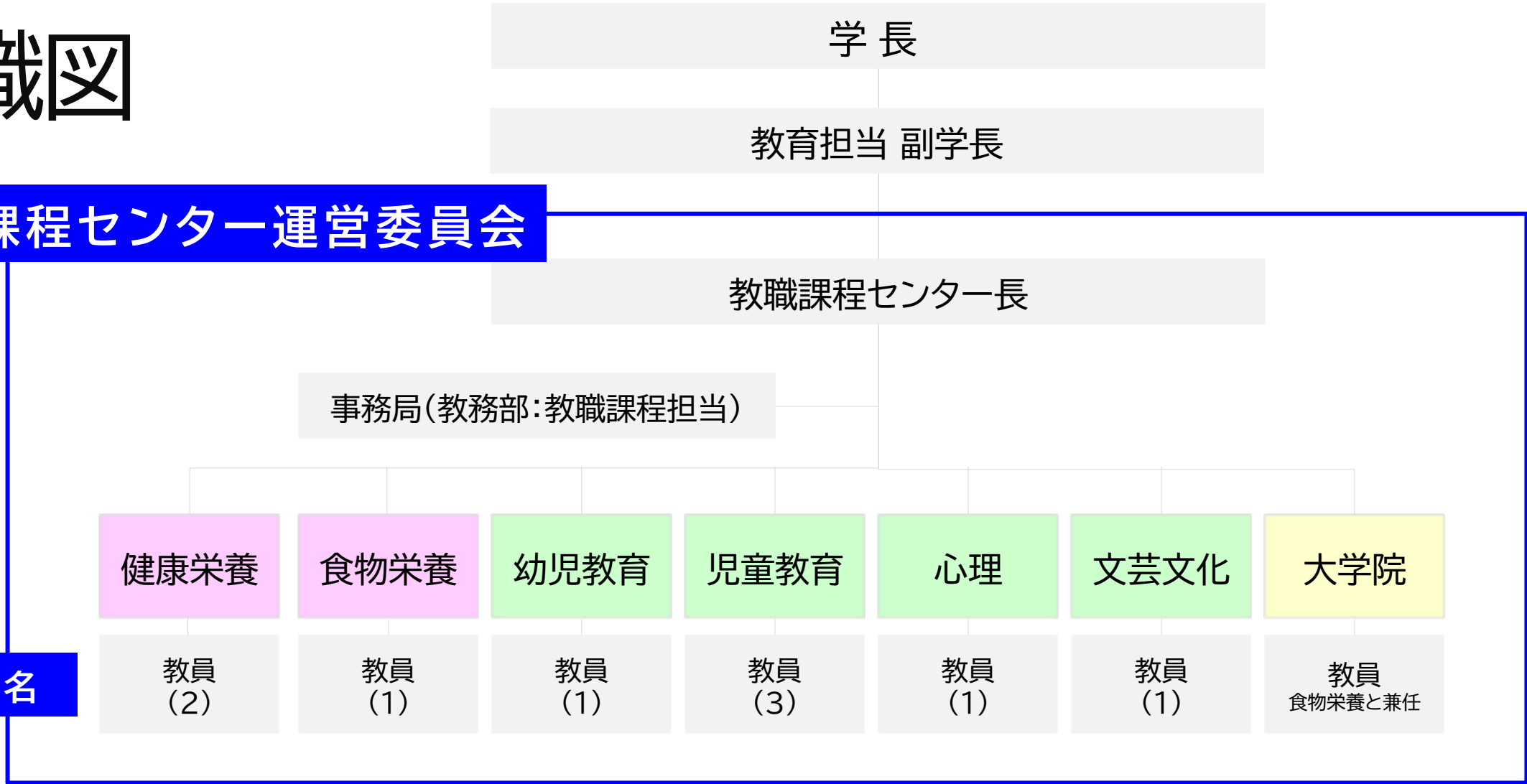


2022年に創立100周年

# 組織図

## 教職課程センター運営委員会

教員9名



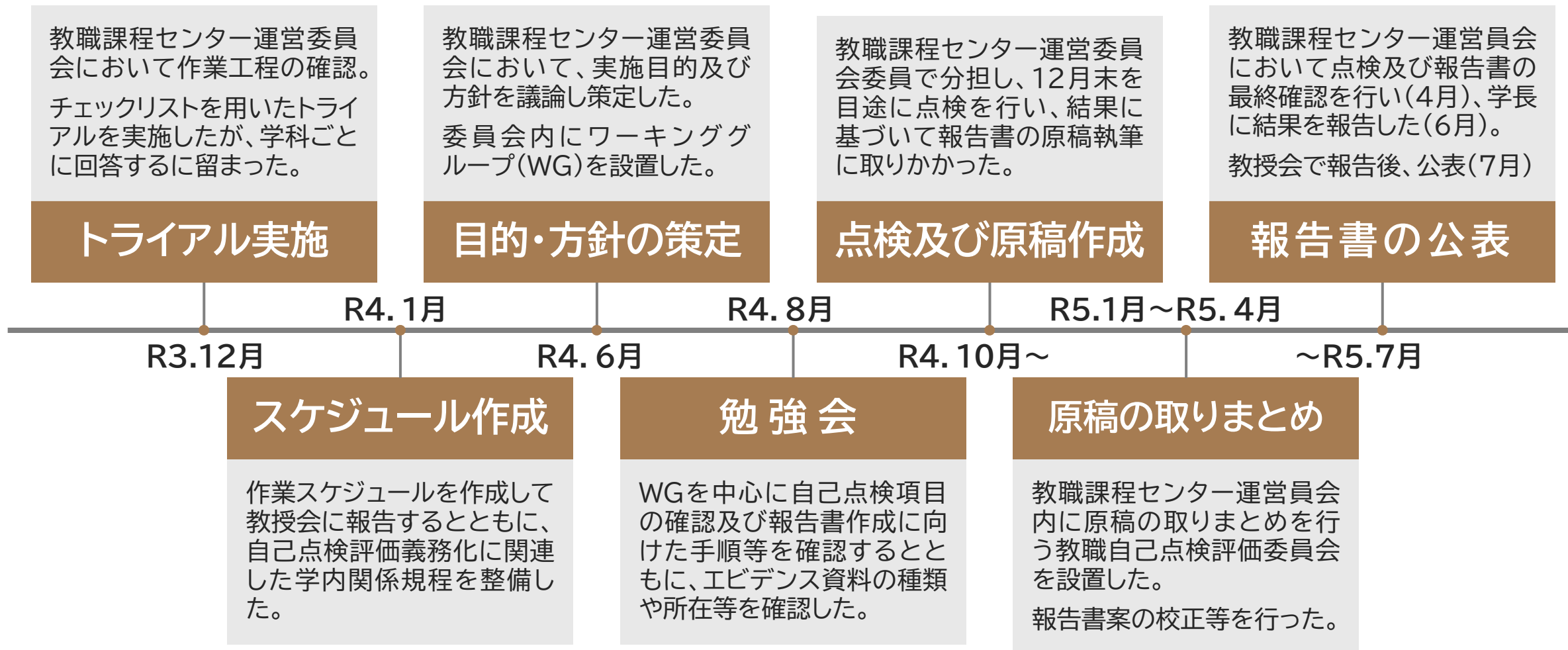
人間生活学部

教育人文学部

大学院

# スケジュール

点検から報告書の公表まで (R3.12月~R5.7月:1年8か月)



# 工夫した点

- ① 自己点検を、チェックリストを作成してプレ実施した。
- ② 教員養成を主たる目的とする学科とそうでない学科とを分離し、後者のチームでWGを組織して協働体制をとった。
- ③ 本学の強み(近隣6市との連携等)を再確認し、アピールした。
- ④ 報告書の原稿校正において、一人の教員が全体を通して見ることにより、一貫性や統一性が向上した。特に、テーマごとに段落を構成したことにより意味のまとまりが生まれた。

# 苦勞した点

- ① 関係者全員が初心者であり見通しを持って進めることが難しかった。
- ② 所属学科や担当免許種に関する状況は把握しているが、他学科や大学全体の成果や課題等の理解が足りなかった。
- ③ 報告書の原稿について、用語や書式等を整えることに時間がかかった。
- ④ 報告書の本文とエビデンス資料とを紐づけることに手間取った。

## 今後の課題

- 教員養成を主たる目的としない学科における教員間の更なる連携(特に、中高免関係)
- 教職履修カルテの効果的活用
- 教育の情報化に対応した学内の教育環境の整備 (特に、教育実習事前指導等におけるICT機器の活用に関する指導)
- 取組観点の参考例のない養護教諭と栄養教諭は他の免許種に準じて扱えたが、特別支援学校教諭までは扱えなかったので今後追加予定
- 自己点検・評価の効率的な実施



# 今後の課題

## 報告書作成編

- 多忙な中での協働作業であり教員と事務局との連携が重要
- 文体等の統一
  - 原稿は箇条書きか、文章か
  - 項番/記号、頻出語等の統一（修得or習得）
  - 言い回しの統一
- 書く内容について
  - 今年度のこと or 複数年度に渡ること
  - 概要 → 長所/短所 → 課題

# 初年度を終えて

- 各学科の取り組みを知る機会であり、委員同士のつながり・連携、これまでの指導や活動を点検できた機会となった。
- 課題が明確になったことを受け、今後は改善に向けて取り組んでいきたい。
- 免許状取得にとどまることなく、一人でも多くの学生を教員として送り出したい。
- 教員採用試験に向けた対策の一環として、学内学修支援センターとの連携を推進していきたい。



御清聴ありがとうございました。

---